

荒船山の絶壁、鱸岩

Precipice and Tomoiwa of Mt. Arafune

地球の窓探索コース

荒船山のつくり

目の前に垂直の岩の壁が立ちはだかっています。垂直の壁をつくっている岩は、荒船山を形づくる安山岩溶岩です。この溶岩は、およそ750万年前に流れたもので、肉眼では結晶が見えにくい、まっ黒なガラス光沢のある安山岩です。このような特徴をもっているために、荒船山の溶岩は、「荒船溶岩」という名前がつけられました。

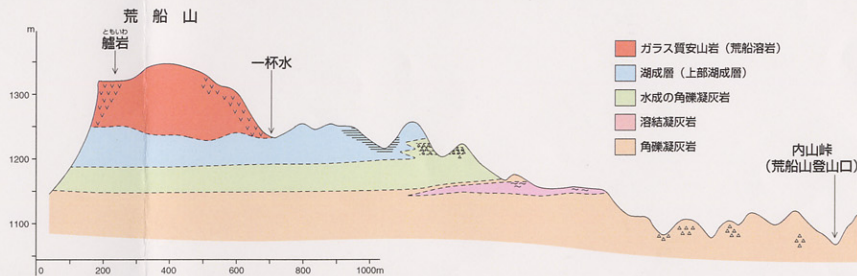


この地点から見えている荒船山の北壁と鱸岩

荒船山の地質

下の図は群馬・長野県境の内山峠から荒船山頂にかけての、尾根ぞいの地質断面図です。ここから見えている荒船山の崖は、図の左端の赤色で表現してある部分にあたります。

図のように、荒船溶岩の下には、湖に堆積した黄褐色ないし暗灰色の泥岩がひろがっていますが、ここからは、荒船溶岩の崩落物や樹木でおおわれてしまい、見る事ができません。



荒船山・内山峠間の尾根にそう地質断面図
内山峠から荒船山登山道を登れば、荒船山の生い立ちがわかります。

崖の形成



荒船溶岩の崩落。葉を落とした林の中に黒く見えているものが崩落した岩塊。

今、立っているこの場所も、数百万年前までは荒船溶岩におおわれていましたが、その後、浸食によって現在の崖のところまで後退していったのです。樹木が葉を落とした時期に、内山トンネルに向かって登っていけば、左側遠方に崩落のようすが観察できます。

荒波に浮かぶ荒船山



荒波に浮かぶ荒船山。妙義山中之岳神社付近からながめた風景。山頂部の平らな山が荒船山。

荒船山は、群馬県側から見ると、文字通り荒波の中に浮かぶ巨大な船のような形に見えます。平坦な山頂の北端は船尾に似ていることから、鱸岩（ともいわ）と呼ばれています。妙義山の中之岳神社の大駐車場に車を止めたときには、ぜひ、荒船山方面をながめてみてください。

山頂に立とう

旧道の内山峠の荒船山登山口には、駐車場がありますので、往復4時間で登ることができます。ほぼ、上の図の尾根にそって登ることになり、足もとの岩石が荒船山の生い立ちを教えてくださいます。